

越境地域政策報告 三遠南信サミットについて

河野和世（三遠南信地域連携ビジョン推進会議／浜松市役所）

1. 三遠南信地域とは

はじめに三遠南信地域について説明する。三遠南信地域は、愛知、静岡、長野の3県の県境地域のことであり、愛知県東部の東三河地域の「三」、静岡県西部の遠州地域の「遠」、長野県南部の南信州地域の「南信」を合わせて三遠南信地域と呼ばれている。図1で塗りつぶされた地域が三遠南信地域である。

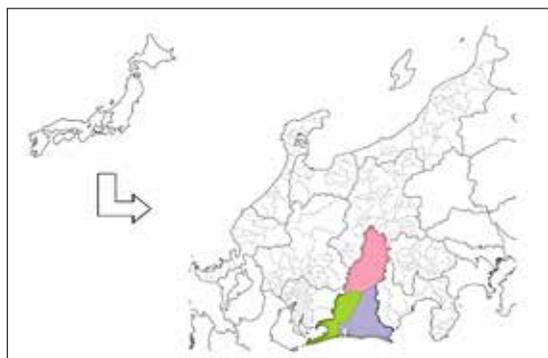


図1 三遠南信地域図

三遠南信地域は、歴史的な繋がりも強く、古くは、天竜川や豊川を利用した水運が盛んであったほか、太平洋沿岸部と内陸部を結ぶ「塩の道」と呼ばれる街道を通じ、陸運での交流も活発に行われてきた。

2. 三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）について

この地域の連携を推進するための組織である「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」、通称「SENA（セナ）」について説明する。

当組織は、圏域内の39市町村、53商工会議所・商工会、3県の95団体からなり、三遠南信地域連携ビジョンの実現に向け、東三河地域、遠州地域及び南信州地域の県境を越えた地域連携を推進し、一体的な圏域の発展を目指すことを目的とした組織である。三遠南信地域連携ビジョン推進会議という組織を英語

で表すと「San-En-Nanshin-Area-Relationship-Vision Progressive Conference」となり、そこから頭文字のS・E・N・Aを取り、「SENA」と呼んでいる。

3. 三遠南信地域連携ビジョン

三遠南信地域の発展の方向性を明確に示す、持続可能な地域づくりの指針として、「三遠南信地域連携ビジョン」を位置付けている。2008（平成20）年度に「三遠南信地域連携ビジョン」を策定し、2017（平成29）年から2018（平成30）年にかけてビジョンの見直しを行い、2019（平成31）年3月から「第2次三遠南信地域連携ビジョン（以下、「第2次ビジョン」）」として新たにスタートさせた。

第2次ビジョンは、三遠南信地域連携ビジョンの基本的な方向性を踏まえ、三遠南信地域を取り巻く社会状況や環境などの変化を反映し、新ビジョンとして目指すべき地域像、基本方針を示すものとして、テーマを「三遠南信流域都市圏の創生 ～日本の県境連携先進モデル～」としている。

4. 三遠南信サミット

（1）三遠南信サミットの歴史

1994（平成6）年に第1回となる三遠南信サミットを開催して以降、会場を東三河・遠州・南信州の3地域で持ち回りながら毎年度開催している。

2007（平成19）年の第15回サミットにて三遠南信地域連携ビジョンの合意、2008（平成20）年には、SENAの立ち上げ、2018（平成30）年には、第2次ビジョンの基本的合意など、歴史を積み重ねている。

2020（令和2）年度の第28回サミットは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、第1回以降初めてのオンライン開催、第29回サミットは、オンラインと会場参集によるハイブリット開催とコロナ禍によってこれまでとは異なる形態で実施した。

（2）第30回三遠南信サミット

第30回を迎える三遠南信サミットは、長野県飯田市

にある飯田文化会館及び飯田人形劇場を会場に3年振りとなる関係者の会場参集のもと開催した。第30回目の節目から、「第30回記念サミット 新たな時代に向けて ～大変革時における地域のリデザイン～」をテーマに新たな時代に向けた三遠南信地域連携の在り方についてSENA構成団体代表者や住民代表者等が意見を交わした。



図2 第30回三遠南信サミットチラシ

全体会では、南信州の下條村出身で、俳優・タレントとして活躍されている峰竜太氏に「新たな時代に向けて ～変わる魅力、変わらない魅力～」というテーマのもと、ふるさとの思い出や外から見る三遠南信地域の魅力などについて講演いただき、全体会終了後、3つの分科会に分かれ、テーマごと意見を交わした。

第1分科会では「DX時代の交流・連携 ～ヒト・モノ・コトの行き交う社会の創出～」をテーマに、物理的距離を超え、人材交流や情報交換のより一層の活発化が予想されるDXについて、行政や企業といった枠組みを超えた交流や組織、新たな技術の活用による物流や地域医療の可能性等について、意見や取組を共有し、今後の在り方や連携の可能性を探る議論が行われた。

第2分科会では「三遠南信地域をつなぐ道 ～これまでを辿り、これからへ繋ぐ～」をテーマに、本地域内に整備が進められている三遠南信自動車道やリニア中央新幹線など、人や物の流れの変化や活発化が予想・期待されており、これまでも議論されてきた「道」を活用した本地域の今後の在り方や連携の可能性について議論が行われた。

第3分科会では「どうする三遠南信 ～歴史資源のリブランディング～」をテーマにNHKの大河ドラマ

「どうする家康」で、本地域が舞台となることが予想されていたため、本地域の歴史や連携の歩みなどを振り返りつつ、歴史資源を活用した観光やプロモーションなど、地域資源の価値化や地域のファン獲得に繋がる地域ブランディングの取組を共有し、本地域の今後の在り方や連携の可能性を探る議論が行われた。

分科会での議論を踏まえ、三遠南信自動車道の整備促進をはじめ、DX推進による行政・産業・地域などの枠を超えた「ヒト・モノ・コト」の行き交う社会の実現、歴史資源のリブランディングを進めながら三遠南信地域のファン獲得に取り組んでいくことなどをサミット宣言として参加者全員で確認した。



図3 サミット宣言

5. 三遠南信地域連携事例

(1) 三遠南信地域災害時相互応援協定

1996（平成8）年度に一部の構成市町村が、災害時に相互応援を行う協定を締結し、その後、締結市町村を増やし、2018（令和元）年度の第27回サミットが「防災」をテーマに開催したことを契機に39の構成市町村全てが締結している。これに基づき、職員派遣や物資供給等で相互協力することを目的とし、毎年度本協定の運用の検討や意見交換を行う会議の開催、情報伝達訓練等を実施している。

(2) 三遠南信しんきん物産展

本地域内の信用金庫が主体となり、広域連携発展に向け、県境を越えて協働で取り組むことを目的として開催する「三遠南信しんきんサミット」に付随して、山や海の幸、特産品等の物産展を開催している。

2020（令和2）年度は、コロナ禍によりオンライン物産展が開催され、2021（令和3）年度には、クラウドファンディングの仕組みを使った新商品のデビューサイト「Makuake」内に特設ページを設け、新商品・新サービスの開発に取り組む事業者を応援し、地域の信用金庫として、地域の活性化を図っている。